

## 第6回家政学部賞 (2013)

THE SIXTH JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY AWARD FOR CONTRIBUTION  
HUMAN SCIENCES AND DESIGN (2013)

所管：家政学部を考える会

日本女子大学家政学部「家政学部賞」は、私たちの生活をより合理的で豊かなものにするために、家庭生活や生活環境に関わる諸問題を自然科学的・人文科学的・社会科学的に探究し、人類の福祉に広く貢献する個人および団体の活動を奨励するものである。

### 受賞

岩村暢子氏 (元アサツー ディ・ケイ 200X ファミリーデザイン室長)  
特定非営利活動法人 コドモ・ワカモノまち ing  
特定非営利活動法人 育て上げネット

#### ＜元アサツー ディ・ケイ 200X ファミリーデザイン室長 岩村暢子氏＞

#### 若年層の食調査を通して食育活動の契機を作られたことへの功績に対して

岩村暢子氏は、1960年以降に生まれた親たちが形成する日本の新しい家族の実態について食事調査を通して明らかにされ、多くのメディアに発表されてきた。その調査は、若年層の食の乱れや変容の実態が取り沙汰されていながらも、詳細な調査は行われてなかった1990年代にいち早く若者の食に焦点をあてた「食DRIVE」である。1998年から2002年にわたる6回の調査では、111人の計2,331食卓に対し、次に示す3つのステップで行われた。第1ステップでは、食生活・食意識などの意識調査、第2ステップは1週間の3食の食卓の食材や入手経路にいたる写真付きの実態調査、第3ステップは、第1ステップと第2ステップの矛盾点などを面接により、詳細に食生活の内容およびそれに至った生活の背景にまで考察を深め総合的な検討をしていくという、実に綿密な方法で行われた(「食DRIVE」は現在も、第18回調査を継続中である)。

この調査結果により通常見過ごされがちな「意識

と実態のずれ」が明らかになり、それまでの意識調査だけでは出てこなかった当時の30代の親をもつ若い家族の食卓の実際が浮き彫りになったといえよう。その結果は2003年、勁草書房から出版された『変わる家族 変わる食卓』に著されている。この本の出版は、日本の食生活調査に少なからず影響を与え、2005年の食育基本法制定前に多くの一般の生活者、とくに小さな子供をかかえる30代の主婦に警鐘を鳴らした功績は大きいと考える。さらには、省庁や内閣府、食育関連企業などにも影響を与えた。

その後も引き続き、1960年以降生まれの親世代までさかのぼる調査・研究実績もあり、現代に生きる生活者としての日本人の実態を記録として残し続けている。食生活調査から始まり、現代家族像まで切り込み、現代に生きる各年代層の生活の背景を明らかにしたことは、現在の、また今後の日本人の生活の質を合理的でより豊かなものにするうえで、非常に重要な問題点を浮き彫りにしたと考えられる。岩村氏の代表的な著作を以下に示す。

- 『家族の勝手にしょ!』(新潮社, 2010)
- 『普通の家族がいちばん怖い 徹底調査! 破滅する日本の食卓』(新潮文庫, 2010)
- 『変わる家族 変わる食卓 真実に破壊される

マーケティング常識』(中公文庫, 2009)

- 『〈現代家族〉の誕生 幻想系家族論の死』(勁草書房, 2005)

岩村氏は、若者の食から家族のあり方を問い直すことにより、生活の質向上に貢献した食育先駆者といえよう。

以上の理由により家政学部賞を授与する。

## <特定非営利活動法人 コドモ・ワカモノまちing>

### 子ども・若者が主体的に参画する環境づくりの取り組みに対して

近年、子ども・若者をとりまく環境は激変し、「まちとの関わり」が希薄になってきており、まちとの関わりのない子ども・若者は、自分のまちへの愛着も薄く、大人になった時に多様な人間関係をさけ、まちには関心を示さない傾向にあるという問題意識のもとに立ち上がった団体が、NPO法人コドモ・ワカモノまちingである。この団体は、現在、子ども・若者が主体的にまちに参画するための環境づくりを行うと共に、感動・感性・感謝する気持ちを育む、「食育」により、子ども・若者と一緒に豊かなまちを育むことを目的に活動している。

2001年に学生15人で、子どもの参画によるまちづくりの拠点とするため、空き家を改装した子ども基地をつくることからスタートし、子どもイベントや遊び場づくり、絵本や遊具の制作、幼・小・中・高・大学の授業、全国の若者の人材育成など、発展的にその活動を展開している。2008年にNPO法人化し、都内を中心に主に0～20代の子ども・若者を対象に、遊び・教育・環境・防災・建築・福祉・食・まちづくりなど様々な体験交流活動をしている。毎年10万人の子どもと関わり、1000名以上の若者と共に100以上の企業や団体と協働し、数人の遊びやワークショップから3万人のイベントを実施。首都圏を中心に、新潟・長野・宮城で年間約100事業を展開している。現在は、特に石巻市の仮設住宅等での子供の遊び機会提供の支援にも力を入れている。

まち全体を子ども・若者にとっての「安心・安全な居場所」として復活させると共に、まちに関わることの楽しさの共感を通して、子ども・若者たちと

ともに、まちの活性化に取り組み、まち全体で子ども・若者を育む環境づくりも行っている。

また、本団体の特徴は、子供を対象にするばかりでなく、各専門分野の講師を招へいして、座学から実践を重視する実地研修による学生プレリーダー養成講座等に力を入れていることである。長期休み際には宿泊型のリーダー研修を行い、若者が、地域で活躍するプレリーダーとなることを応援し、多くの人材輩出を行ってきた。常時200名以上の若者がサポーター登録をしており、子供達の参加する活動を支えるとともに、若者自身が地域との繋がりの大切さを実感し、成長する機会を提供している。今後も若者育成、そして若者が社会で活躍する場を提供する団体としての活躍も期待される。

地域の活性化を都市計画というような政策的な目線からではなく、若者や子供の目線からとらえ、アプローチしているこの取り組みは、常に生活者の視点から豊かな環境を創造しようとする家政学の理念に合致する。

以上の理由により家政学部賞を授与する。

## <特定非営利活動法人 育て上げネット>

### 若者の就労と自立のための包括的な支援活動に対して

近年、完全失業率や非正規雇用の高さ、若年無業者の存在など、若者が直面する問題は深刻化しており、「さまざまな要因によって社会的な参加の場面がせばまり、就労や就業などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている支援が必要な若者」の増加が目目されている。

特定非営利活動法人育て上げネットは、このような若者が自分らしい生き方、働き方を見つけ、自立していくための多角的なサポートを行っている団体である。2001年の任意団体設立以来13年の実績を有し、若者の持続的な社会参加と経済的自立に向けた様々な事業を展開してきた。主な活動は、以下の通りである。

1. 若年者就労支援事業：若年者就業基礎訓練プログラム「ジョブトレ」を中心に、若者が「働き続ける」ための支援。
2. 企業連携事業：①CSR(企業の社会的責任)のための協働事業。②「ジョブトレ」での企業研

修による連携事業。③若手従業員の職場定着のためのコンサルティング活動事業。

3. 保護者支援事業：我が子がニート・ひきこもり状況に陥り悩む家族や保護者に対する個別相談やセミナーを通じた支援。
4. キャリア教育事業：「ニート」「フリーター」と言われる状況に「不本意に陥らない」ための、学齢期の若者への支援。
5. 官公庁ソリューション事業：行政に先駆けて「ジョブトレ」等の支援事業を進めてきた経験・ノウハウを「公共の福祉」に活用し、各地の公

的な若者支援機関の企画・運営に携わる。

育て上げネットは、若者が就職することのみを目的とするのではなく、働き続けるために必要な力の育成を重視しており、生活の立て直しを含めた自立プログラムを開発している。家族への支援や、地域・企業・行政等との連携事業の展開なども特徴のひとつである。これらの実践は、「よりよい生活を実現するために生活問題を予防し解決しようとする個人・家族・コミュニティをエンパワーする」家政学の目的にふさわしい功績であるといえる。

以上の理由により家政学部賞を授与する。